

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名		設置認可年月日		校 長 名		所 在 地		
新東京歯科技工士学校		昭和56年 3月30日		福原 達郎		〒143-0016 東京都大田区大森北1-18-2 (電話) 03-3763-2211		
設 置 者 名		設立認可年月日		代 表 者 名		所 在 地		
学校法人 東京滋慶学園		昭和61年 2月1日		中村 道雄		〒143-0016 東京都大田区大森北1-18-2 (電話) 03-3763-2211		
目 的		歯科技工士科 I 部は患者の笑顔と健康をサポートできる、基本が徹底的に強い、凛とした医療人(歯科技工士)を養成します。						
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与		
医療	歯科技工士専門課程	歯科技工士科 I 部	2年(昼)	2498時間	平成22年文部科学省告示第百五十三号	—		
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技		
		722時間	単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	1776時間	単位時間 (又は単位)		
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数
180人		127人		8人		36人		44人
学期制度		■前期：4月1日から9月30日 ■後期：10月1日から3月31日		成績評価		■成績表(有) ■成績評価の基準について AA(90点～100点) A(80点～89点) B(70点～79点) C(60点～69点) D(59点以下) C以上で合格、Dで不合格 ■成績評価の基準について 試験の結果、出席状況、学習態度、実習作品で評価する。		
長期休み		■学年始め：4月1日 ■夏 季：8月10日から8月20日 ■冬 季：12月25日から1月5日 ■春 季：3月20日から3月31日 ■学 年 末：3月31日		卒業・進級条件		■成績評価 C以上 ■出席日数・取得時間数 授業時間数の1/3以上で		

生徒指導	<b>■クラス担任制（有）</b> <b>■長期欠席者への指導等の対応</b> 担任から家庭への定期的な電話連絡の他に、必要に応じて、個人面談、三者面談を実施する。	課外活動	<b>■課外活動の種類</b> ・ 歯科技工士会と連携したボランティア活動（手型とり等） ・ 各種講習会、デモンストラターの参加 <b>■サークル活動（有）</b> ほるほるクラブ （歯型彫刻トレーニングを行う）
就職等の状況	<b>■主な就職先、業界</b> 歯科技工所、歯科診療所、大学歯科病院、歯科機材メーカー <b>■就職率 100%</b> <b>■その他 進学者10名</b> （平成26年度卒業者に関する平成27年4月時点の情報）	主な資格・検定	歯科技工士免許 コミュニケーションスキルアップ検定
中途退学の現状	<b>■中途退学者 3名 ■中退率 2.6%</b> 平成26年4月1日在学者 117名（平成26年4月入学者を含む） 平成27年3月31日在学者 114名（平成27年3月卒業生を含む） <b>■中途退学の主な理由</b> 生活習慣問題、病気 <b>■中退防止のための取組</b> 電話連絡・個人面談・三者面談実施及びSSC(学校カウンセラー)との連携強化		
ホームページ	URL: <a href="http://www.dt.ntdent.ac.jp">http://www.dt.ntdent.ac.jp</a>		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

業界が求める人材要件（知識・技術・人間性等）を明確にし、企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識・技術を反映するための場とし、次年度カリキュラムに活かしていく。

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年5月1日現在

名 前	所 属
福原 達郎	新東京歯科技工士学校
三觜 雅子	新東京歯科技工士学校
高橋 友深	新東京歯科技工士学校
中村 聖之	新東京歯科技工士学校
今井 リカ	新東京歯科技工士学校
小島 三知長	新東京歯科技工士学校
鈴木 勝己	新東京歯科技工士学校
西澤 隆廣	一般社団法人 東京都歯科技工士会
久木野 正宣	江東歯科技工士会
陸 誠	株式会社 コアデンタルラボ横浜

### (開催日時)

第1回 平成27年6月11日 10:00～12:00

第2回 平成27年8月20日 10:00～12:00

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
歯科技工実習	歯科技工士が働く現場(歯科技工所や歯科診療所)の見学や体験を通して、臨床現場の仕事の流れを理解し、卒業後の進路決定の参考にする。また、訪問先で接する人々に対するマナーを知ることを通して社会性を身につける。	(株)コアデンタルラボ横浜、(株)佐藤歯研、(株)アソ・インターナショナル、デンタルサポート(株)デンタルスタジオ、(株)中田デンタルセンター、(株)MDJ等

## 3. 教員の研修等

### (教員の研修等の基本方針)

研修は教員の授業内容・方法及びクラス運営方法を改善し向上させるとともに、マネジメント能力を含む指導力の習得、向上させるために行う。研修の対象は一般教員、学科長及び教務部長とし、個々の教育経験、在職期間等を考慮し、それぞれの対象に応じた到達目標、研修方法並びに評価指標を定めて実施する

## 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年5月1日現在

名 前	所 属
鍛冶田 忠彦	昭和大学歯科病院
青柳 宏美	青柳デンタルオフィス
阿部 隆一	元法政大学高等学校
塩津 二郎	大田区蒲田歯科医師会
吉澤 和之	株式会社 オーリアラ
久木野 正宣	江東歯科技工士会

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.dt.ntdent.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.dt.ntdent.ac.jp>

授業科目等の概要

(新東京歯科技工士学校 歯科技工士科 I 部) 平成 27 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技
○			外国語	歯科に関する英単語を中心とした歯科英語や、基本的な日常英会話やトラベル英会話について学ぶ。	1 通	32	2	○		
○			造形美術概論	歯や歯列のデッサンを通して、形態のとらえ方や、立体的な形態の表現力について学ぶ。	1 前	16	1	○		
○			歯科技工士関係法規	「歯科技工士」として業務を行うために必要な「歯科技工士法」とその関連法規について学ぶ。	2 通	22	1	○		
○			歯科技工学概論	歯科医療に関する全般的な知識や歯科技工の重要性・歯科技工物についての概略を学ぶ。	1 前	56	3	○		
○			歯科理工学Ⅰ	金属、高分子、セラミックス、複合材料などの性質・成形法について学ぶ。	1 通	64	4	○		
○			歯科理工学Ⅱ	歯科技工士が使用する様々な歯科材料、器具、機械の取扱い方について学ぶ。	1 通	98	3			○
○			歯科理工学Ⅲ	金属、高分子、セラミックス、複合材料などの性質・成形法について学ぶ。	2 通	47	3	○		
○			歯科理工学Ⅳ	歯科技工士が使用する様々な歯科材料、器具、機械の取扱い方について学ぶ。	2 通	60	2			○
○			歯の解剖学Ⅰ	歯の形態や特徴、口腔内や頭部の骨・筋肉・神経などについて学ぶ。	1 通	48	3	○		
○			歯の解剖学Ⅱ	歯のデッサンや石膏棒・ワックス棒での歯型彫刻や等倍大の天然歯彫刻を行う。	1 前	90	3			○
○			歯の解剖学Ⅲ	歯の形態や特徴、口腔内や頭部の骨・筋肉・神経などについて学ぶ。	2 通	41	2	○		
○			顎口腔機能学Ⅰ	顎の動きや顎の動きに調和した噛み合わせ、技工物製作に使用する咬合器について学ぶ。	1 後	18	1	○		
○			顎口腔機能学Ⅱ	フェイスボウトランスファーを体験し、半調節性咬合器の取扱い方について学ぶ。	1 後	34	1			○
○			顎口腔機能学Ⅲ	顎の動きや顎の動きに調和した噛み合わせ、技工物製作に使用する咬合器について学ぶ。	2 通	22	1	○		
○			有床義歯技工学Ⅰ	虫歯や歯周病によって歯を失った場合に装着する義歯(入れ歯)について学ぶ。	1 通	64	4	○		
○			有床義歯技工学Ⅱ	義歯(総入れ歯・部分入れ歯)の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	1 通	194	6			○
○			有床義歯技工学Ⅲ	虫歯や歯周病によって歯を失った場合に装着する義歯(入れ歯)について学ぶ。	2 通	47	3	○		

○		有床義歯技工学Ⅳ	義歯(総入れ歯・部分入れ歯)の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	2通	184	6			○	
○		歯冠修復技工学Ⅰ	虫歯などで削られた患者さんの歯に合った人工物(クラウンやブリッジ等)について学ぶ。	1通	64	4	○			
○		歯冠修復技工学Ⅱ	虫歯などで削られた患者さんの歯に合った人工物(クラウンやブリッジ等)の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	1通	186	6			○	
○		歯冠修復技工学Ⅲ	虫歯などで削られた患者さんの歯に合った人工物(クラウンやブリッジ等)について学ぶ。	2通	45	3	○			
○		歯冠修復技工学Ⅳ	虫歯などで削られた患者さんの歯に合った人工物(クラウンやブリッジ等)の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	2通	206	6			○	
○		矯正歯科技工学Ⅰ	矯正治療を行う上で必要な理論や矯正装置の製法について学ぶ。	1後	16	1	○			
○		矯正歯科技工学Ⅱ	矯正治療を行う上で必要な理論や矯正装置の製法について学ぶ。	2通	22	1	○			
○		矯正歯科技工学Ⅱ	矯正装置の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	2前	16	0			○	
○		小児歯科技工学Ⅰ	小児の歯・顎・顔面の成長発育の特徴、小児歯科で用いられる修復物、各種装置について学ぶ。	1後	16	1	○			
○		小児歯科技工学Ⅱ	小児の歯・顎・顔面の成長発育の特徴、小児歯科で用いられる修復物、各種装置について学ぶ。	2通	22	1	○			
○		小児歯科技工学Ⅱ	小児歯科で用いられる装置の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	2前	8	0			○	
○		技工実習Ⅰ	歯型彫刻、実習トレーニング、実習試験を通して、日頃の実習で習得した知識や技能の確認をし、今後の課題を見つける。	1通	286	9			○	
○		技工実習Ⅱ	歯科技工士が働く現場(歯科技工所や歯科診療所)の見学や体験を通して、臨床現場の仕事の流れを理解し、卒業後の進路決定の参考にする。また、訪問先で接する人々に対するマナーを知ることを通して社会性を身につける。	2通	270	9			○	
○		選択必修科目Ⅰ	海外研修、国内研修を通して、海外の歯科事情や歯科業界の動向を学ぶ	1後	52	1			○	
○		選択必修科目Ⅱ	今までに習得した知識・技術を結集し、各自の希望に合わせた卒業課題研究作品を製作する。	2通	92	3			○	
○		選択必修科目Ⅲ	国家試験に合格するために、全指定科目(8科目)の模擬試験を行う。	2通	60	4				
合計					33科目		2498時間			